

「国際日本語」としての〈やさしい日本語〉
「かわいい日本語に旅をさせる」ために

一橋大学国際教育センター教授 庵 功雄

isaoiori@courante.plala.or.jp

<http://www12.plala.or.jp/isaoiori/>

1. はじめに

- 木村（2016）は、言語に対する心構えの書としても、言語政策の書としても重要な指摘に満ちており、非常に参考になる
- 同書の日本語について論じた部分では〈やさしい日本語〉が取り上げられている
- 本発表の目的は、同書で提起された〈やさしい日本語〉への問いかけについて発表者なりの答えを提示することにある

2. 本発表の流れ

- はじめに
- 〈やさしい日本語〉とは何か
 - 「やさしい日本語」から〈やさしい日本語〉へ
 - 居場所作りのための〈やさしい日本語〉
 - バイパスとしての〈やさしい日本語〉
 - 日本語表現の鏡としての〈やさしい日本語〉
- 「節英」から見た〈やさしい日本語〉
 - 「節英」とは何か
 - 「民族英語」と「国際英語」
 - 「節英」と〈やさしい日本語〉
- 「国際日本語」としての〈やさしい日本語〉
- おわりに

3. 〈やさしい日本語〉とは何か

- 「やさしい日本語」から〈やさしい日本語〉へ
- 居場所作りのための〈やさしい日本語〉
- バイパスとしての〈やさしい日本語〉
- 日本語表現の鏡としての〈やさしい日本語〉

3. 〈やさしい日本語〉とは何か

- 「やさしい日本語」から〈やさしい日本語〉へ
- 居場所作りのための〈やさしい日本語〉
- バイパスとしての〈やさしい日本語〉
- 日本語表現の鏡としての〈やさしい日本語〉

3. 〈やさしい日本語〉とは何か

- 「やさしい日本語」から〈やさしい日本語〉へ
 - 阪神淡路大震災で、日本語も英語も十分にできない外国人が二重に被災した
 - → 災害時の外国人に対して、単純化された日本語で情報提供する方策を研究
 - → 専門用語としての「やさしい日本語」（佐藤2004）
 - 一方、発表者たちの研究は平時における外国人への情報提供を出発点とする
 - → 〈やさしい日本語〉

3. 〈やさしい日本語〉とは何か

- 発表者たちの研究は平時における外国人への情報提供を出発点とする
 - → 〈やさしい日本語〉
 - 〈やさしい日本語〉には、主に成人の定住外国人を対象とする「居場所作りのための〈やさしい日本語〉」と、外国にルーツを持つ子どもたちやろう児を対象とする「バイパスとしての〈やさしい日本語〉」という2つの側面がある

3. 〈やさしい日本語〉とは何か

- 「やさしい日本語」から〈やさしい日本語〉へ
- 居場所作りのための〈やさしい日本語〉
- バイパスとしての〈やさしい日本語〉
- 日本語表現の鏡としての〈やさしい日本語〉

3. 〈やさしい日本語〉とは何か

➤ 居場所作りのための 〈やさしい日本語〉

- 〈やさしい日本語〉が果たすべき第一の側面
- 定住外国人にとって最も重要なこと
- → 外国人が定住先の外国を自分の「居場所」と感じられるようになること
- → 「母語でなら言えることを日本語でも言える」ようになること
- → 〈やさしい日本語〉の第一の側面はこの点を保証することにある

3. 〈やさしい日本語〉とは何か

- 「やさしい日本語」から〈やさしい日本語〉へ
- 居場所作りのための〈やさしい日本語〉
- **バイパスとしての〈やさしい日本語〉**
- 日本語表現の鏡としての〈やさしい日本語〉

3. 〈やさしい日本語〉とは何か

▶ バイパスとしての〈やさしい日本語〉

- 〈やさしい日本語〉が果たすべき第二の側面
- 外国にルーツを持つ子どもたちが、高校入学時、遅くとも、高校卒業時に、日本語母語話者の子どもたちと、学力の上で対等に競争できる日本語力を身につけられるようにすること
- このことの見通しを立てずに移民政策に舵を切めることは、これらの外国出身者を低い階層に囲い込むことになり、近い将来、社会的不安定要因になる可能性が高い
- → 「バイパスとしての〈やさしい日本語〉」および、それに関連する言語政策（特に、これらの子どもたちに対する教育の義務教育化）は、**移民政策と不可分の課題**

3. 〈やさしい日本語〉とは何か

▶ バイパスとしての〈やさしい日本語〉

- 〈やさしい日本語〉が果たすべき第二の側面
- 「バイパスとしての〈やさしい日本語〉」および、それに関連する言語政策（特に、これらの子どもたちに対する教育の義務教育化）は、移民政策と不可分の課題
- → **ろう児**に対する日本語教育においても、「バイパスとしての〈やさしい日本語〉」は必要
- → 明晴学園における実践（Iori & Oka 2016）

3. 〈やさしい日本語〉とは何か

- 「やさしい日本語」から〈やさしい日本語〉へ
- 居場所作りのための〈やさしい日本語〉
- バイパスとしての〈やさしい日本語〉
- 日本語表現の鏡としての〈やさしい日本語〉

3. 〈やさしい日本語〉とは何か

➤ 日本語表現の鏡としての 〈やさしい日本語〉

- 〈やさしい日本語〉は日本語母語話者にとっても大きな意味を持っている
- ←外国人に対する説明や外国人との意味交渉の場が、日本語母語話者にとって、自らのコミュニケーション能力を高める絶好の機会となる（庵2016:Cp.6）
- →「普通の日本語」が実はわかりにくいということに気づく機会にもなる

4. 「節英」から見た〈やさしい日本語〉

- 「節英」とは何か
- 「民族英語」と「国際英語」
- 「節英」と〈やさしい日本語〉

4. 「節英」から見た〈やさしい日本語〉

- 「節英」とは何か
- 「民族英語」と「国際英語」
- 「節英」と〈やさしい日本語〉

4. 「節英」から見た〈やさしい日本語〉

➤ 「節英」とは何か

- 木村（2016）は、社会の安全性や持続可能性を守る観点から「節電」が必要とされるのと並行的な意味で、過度の英語依存がもたらす弊害（例えば、世界を英米人の観点で見てしまうこと）を指摘
- → 「自分の英語使用がどのような意味を持つかを自覚して、節度を持って使うこと」としての「**節英**」

4. 「節英」から見た〈やさしい日本語〉

- 「節英」とは何か
- 「民族英語」と「国際英語」
- 「節英」と〈やさしい日本語〉

4. 「節英」から見た〈やさしい日本語〉

➤ 「民族英語」と「国際英語」

- 2つの英語
- 英米人の文化と結びついた英語
- → 「民族英語（ネイティブ英語）」
- 母語話者の手を離れた英語
- → 「**国際英語**」
- → 日本人が学ぶべきもの
- → 「節英」の観点からは「国際英語」よりも「現地語」を使うことが望ましい

4. 「節英」から見た〈やさしい日本語〉

- 「節英」とは何か
- 「民族英語」と「国際英語」
- 「節英」と〈やさしい日本語〉

4. 「節英」から見た〈やさしい日本語〉

➤ 「節英」と〈やさしい日本語〉

- 日本語についても「節英」の観点を拡張
- → 「相手の日本語力に配慮する」ことの結果として、日本語自体が〈やさしい日本語〉に変容することが想定される

5. 「国際日本語」としての 〈やさしい日本語〉

➤ 木村（2016）の主張：

- 「民族英語」に対応する「民族日本語」ではなく、「国際英語」に対応する「**国際日本語**」を構想すべき
- そのときの最も有力な候補は〈やさしい日本語〉である

➤ 田中（1989）の指摘：

- 木村（2016）の指摘を先取りしたと見られる指摘
- 梅棹忠夫氏の「おぞましき日本語」を評価し、日本語が「大陸（コンチネンタル）日本語」となるには「かわいい日本語に旅をさせる」ことが必要だと説いている
- 時代の制約もあり、用語には問題があるが、この指摘は木村氏の指摘を先取りしたものとして傾聴すべきもの

5. 「国際日本語」としての 〈やさしい日本語〉

- 田中（1989:43）より
- 人は誰でも、自分がよりよく受け入れられ、よりよく理解されようとして、まずしくとも知力のかぎりをつくしながらことばを使っている。この活動は人間の尊厳に属するものであって、決してあざけりの対象にしてはならない。[...]真におぞましいのは、自らすすんで相手に理解させる手立てをもたず—したがって、おぞましきことばすら発することもできずに、—自らのせまい好みによって相手を裁こうとする傲慢な感性の方である。

5. 「国際日本語」としての 〈やさしい日本語〉

- 個人的経験より
- 東京新聞の紙面刷新プロジェクト (2018.6.7, 8)
- 読者からの反応
- 高齢の読者から、「若者に迎合するな」的な、新聞はこのままでいいんだという声が予想以上に多かったという

5. 「国際日本語」としての 〈やさしい日本語〉

- 東京新聞の紙面刷新プロジェクト (2018.6.8)
- 読者からの反応
- 高齢の読者から、「若者に迎合するな」的な、新聞はこのままでいいんだという声が多かった
- しかし、上級の留学生も、日本人大学生も、「横書き文化」で育っている
- 新聞には情報的に共有知識に基づく記述が多く、継時的に事実をフォローしていない人にはわかりにくいことが多い
- → 「若者に迎合しない」結果、若者が新聞を読まなくなったら（現になっている）「元も子もない」のではないか？

5. 「国際日本語」としての 〈やさしい日本語〉

➤ 木村（2016）の主張：

- 「民族日本語」から「**国際日本語**」へ
- そのときの最も有力な候補は〈やさしい日本語〉

➤ 田中（1989）の指摘：

- 「おぞましい日本語」（梅棹忠夫）を評価し、日本語が「大陸（コンチネンタル）日本語」となるには「**かわいい日本語に旅をさせる**」ことが必要

➤ → ひよわな「民族日本語」を捨て、「国際日本語」に向けて日本語を旅立たせるべき

6. 〈やさしい日本語〉から見た 「国際日本語」

- 「**国際日本語**」を作る上での留意点
- 1. 「外国人の日本語」を日本語の1つのレパートリーとして聞ける耳（「**公平な耳**」土岐1994）を持つ（cf. 庵2013）
- 2. 相手が何を言おうとしているのかを考える想像力を持つ（→木村（2016:140）「**意味の交渉**」）
- 3. 「**日本語**」を使って何を伝えようとするのが重要
- → 日本語母語話者が相手の日本語能力に寄り添う意識を持つことが最重要
- → **マインドとしての〈やさしい日本語〉**
- → 結果として、「普通の日本語」が〈やさしい日本語〉になっていく

6. おわりに

- 〈やさしい日本語〉は、日本が本格的な移民政策をとる際に重要となる理念を多く含んでいるが、本発表では、木村（2016）の議論を受け、〈やさしい日本語〉が「民族日本語」を「国際日本語」に変えていく触媒となるための条件を考えた

参考文献

- 庵功雄(2013)『日本語教育、日本語学の「次の一手」』くろしお出版
- 庵功雄(2016)『やさしい日本語—多文化共生社会へ』岩波新書
- 木村護郎クリストフ(2016)『節英のすすめ』萬書房
- 佐藤和之(2004)災害時の言語表現を考える『日本語学』23-10
- 田中克彦(1989)かわいい日本語に旅をさせよ『国家語を越えて』筑摩書房
- 土岐哲(1994)聞き手の国際化『日本語学』13-13
- Iori, I. & Oka, N.(2016) A Preliminary Study on Teaching Written Japanese to Deaf Children, *Hitotsubashi Journal of Arts and Sciences*. 57-1

ご清聴ありがとうございました